

世界中の「新しい音」が
聴ける1dayフェス!

ポンウリ

"Born Creative" Festival 2018

2018.9.24(月・祝)

東京
芸術
劇場

Tokyo
Metropolitan
Theatre



ようこそボンクリへ！

本日は、“Born Creative” Festival(ボンクリ・フェス)2018にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

初開催の2017年度に引き続き、今年度も開催の運びとなりましたことを、心より喜ばしく感じております。

本フェスティバルは、「今の時代の音楽をより多くの人々に楽しんでもらいたい」という思いから、世界的に活躍する作曲家 藤倉大氏をアーティストック・ディレクターに迎え、その融通無垢な感性で選んだ「世界中の新しい音」を、赤ちゃんからシニアまであらゆる人々に楽しんでもらいたいという企画です。

このフェスティバルが、既存のルールに縛られない、「新しい音楽」への扉を開き、子供の頃のセンス・オブ・ワンダー(不思議への感性)を呼び戻すきっかけになればと願っています。また、社会全体でクリエイティビティの必要性が高まってきている中、このフェスティバルが、人間の創造性を高めるために芸術が果たす役割について考える機会になれば幸いです。どうぞ、ご家族皆さままでお楽しみください。

最後に、本公演の実現のためにご協力いただきました全ての皆様に、厚く御礼申し上げます。

東京芸術劇場

アーティストック・ディレクター：藤倉大

プロダクション・マネージャー：關秀哉

舞台監督：山貫理恵(ニクステージワークス)

音響オペレーター：小内弘行

(株式会社ジョイスOUNDプロモーション)

映像技術：阿達直樹

サウンドデザイン：永見竜生[Nagie]

ビジュアルデザイン：秋澤一彰(秋澤デザイン室)

イラスト：Milena Mihaylova

【東京芸術劇場スタッフ】

プロデューサー：鈴木順子

技術統括：白神久吉

技術統括補・音響：石丸耕一

舞台：松島千裕／鈴木久仁日呂 秋山佑子

照明：新島啓介／中野雅也 早川美紀子

音響：横山萌／石川正通 齋藤泰邦

制作：横堀応彦 會宮麻矢 首藤明彦

運営：島啓之 出口マミ 中村よしき

鋤田千里 今井俊介 宮岡夏希

広報：前田圭蔵 久保風竹 安田裕美

票券：井上由姫 奥村和代

研修生：五田詩朗

インターン：荒明祐里(立教大学) 山田茉友(立教大学)

ボンクリマニフェスト

「ボンクリ」とは「ボーン・クリエイティヴ」、「人間は皆、生まれつきクリエイティヴだ」という意味。数年前から僕がやっている福島県相馬市での作曲教室では、プロの演奏家たちが特殊技法等をみっちり紹介したあと、その場で子供達が「新しい音楽」(現代音楽と呼ぶ人も多いかも知れない)の作曲をする。しかもすべての音や指示を楽譜にきちんと記し、自分の作曲した作品をその場で演奏してもらう。この作曲教室を何年か継続してみてわかったことは、全ての人間は子供の頃、「新しい音」、5歳の子供の言葉を借りると「変な音」が好きだったということだ。でもなぜか、そのクリエイティビティは成長するにつれ、失われていく。

この「ボンクリ・フェス」は、大人になっても5歳の子供のままクリエイティヴでいる人達の作品を、赤ちゃんからシニアまでが楽しめる1日音楽祭。去年一体どうなるのかなと思いつつ開催したところ、企画した僕たちもびっくりするくらいの大反響で、2回目もやるしかないでしょう! というところで、今年もまたやります!

朝から晩まで、「ボンクリに関わりたい!」という色々なジャンルの音楽家によるイベントを東京芸術劇場内に散りばめました。演奏家と共に参加し、一緒に音楽を作るワークショップもあり、即興音楽もあり、日本の伝統音楽である尺八も、合唱も、ブラジルの音楽も、エレクトロニクス(電子音楽)も、現代音楽アンサンブル作品もあり、日本の演奏家はもちろん、ヨーロッパ、アメリカからも多彩なジャンルの音楽家が集まります。丸一日、東京芸術劇場館内に「新しい音楽」が満ち溢れます。

藤倉大(作曲家/ボンクリ・フェス2018 アーティスティック・ディレクター)

藤倉大

Dai Fujikura

作曲家

Composer

ボンクリ・フェス2018

アーティスティック・

ディレクター

Artistic Director



©Seiji Okumura

1977年大阪生まれ。15歳で渡英し、エドウィン・ロックスバラ、ダリル・ランズウィック、ジョージ・ベンジャミンに師事。数々の作曲賞を受賞。ザルツブルグ音楽祭、ルツェルン音楽祭、BBCプロムス、バンベルク響、シカゴ響、アンサンブル・アンテルコンタンポラン、シモン・ボリバル響、アルディッティ弦楽四重奏団等から委嘱され、国際的な共同委嘱もますます増えている。これまでに、ブーレーズ、エトヴェシュ、ノット、ドッダメル、アルミンク、リープライヒ、井上道義、山田和樹らが藤倉の作品を初演・演奏している。2014年4月、名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンポーザー・イン・レジデンスに就任。2015年3月には、シャンゼリゼ劇場、ローザンヌ歌劇場、リール歌劇場の共同委嘱によるオペラ「ソラリス」がシャンゼリゼ劇場にて世界初演された。17年4月には、革新的な作曲家に贈られる伊の「ヴェネツィア・ピエンナーレ」音楽部門銀獅子賞を受賞。録音も多数。楽譜はリコルディ社から出版されている。Minabel Recordsを主宰。

<http://www.daifujikura.com>

アトリウム・コンサート Atrium Concert

ボンクリ精神あふれる音楽が東京芸術劇場の館内を駆け巡ります。

会場 ロワー広場内ステージ(地下1階)

Program

●10:50~10:55 … イサオ・ナカムラ(パーカッション)

Isao Nakamura(Percussion)

ヨンヒ・パクバーン: 打鈴 IV 打楽器ソロのための「超現代の裏側」

Younghi Pagh - Paan: TA - RYONG IV

「The flip side of postmodernism」 for Solo Percussion

●11:50~12:10 … 佐藤洋嗣(コントラバス) * アンサンブル・ノマドメンバー

Yoji Sato(Contrabass)

ルチアーノ・ベリオ: psy

Luciano Berio: psy

川島素晴: The Yagi 節

Motoharu Kawashima: The Yagibushi

藤倉大: Bis

Dai Fujikura: Bis

藤倉大: es

Dai Fujikura: es

●16:45~17:05 … 黒田鈴尊(尺八)

Reison Kuroda(Shakuhachi)

藤倉大: ころころ

Dai Fujikura: Korokoro

山本和智: Roaming liquid set - 01. Aquifer A / B For Shakuhachi solo

Kazutomo Yamamoto: Roaming liquid set - #01. Aquifer A / B For Shakuhachi solo

●17:05~17:10 … イサオ・ナカムラ(パーカッション)

Isao Nakamura(Percussion)

ヨンヒ・パクバーン: 打鈴 IV 打楽器ソロのための「超現代の裏側」

Younghi Pagh - Paan: TA - RYONG IV

「The flip side of postmodernism」 for Solo Percussion

藤倉大からの
ミニ・コメント



電子音楽の部屋 | "Electronics Music Room"

時間 11:00~18:00 会場 アトリエイースト、アトリエウエスト(地下1階)

監修 檜垣智也

Supervisor: Tomonari Higaki

Program

ベルナルド・パルメジャーニ、ポーリン・オリヴェロス、

ベアトリス・フェレイラの音楽

Music by Bernard Parmegiani and Pauline Oliveros and Beatriz Ferreyra

入退場
自由

去年の、電子音楽をテーマとした「リュック・フェラーリの部屋」がものすごい好評で、なんと延べ500人もの人が訪れ、入ったらなかなか出て来ない人々も続出でした! ということで、今年は倍の2部屋でやろう! ということになりました。前回は「ポーリン・オリヴェロスの部屋」でフィーチャーしたオリヴェロスの電子音楽(僕は必ずこの方の電子音楽を飛行機の機内で聴きます。飛行機の遅れ、とか気にならなくなります笑)に加え、今回は、ついこの間SNSで知ることになったパルメジャーニの音楽(これがすごくカッコいい!）、さらにフェレイラ(この部屋の監修の檜垣さんからのオススメで、聴いたらすごく面白い。いつも僕はお風呂に入りながらこの方の作品を聴いていて、そのために防水の音の良いスピーカーも買いました。)の作品も取り上げます。今回は本当に盛りだくさん。

ワークショップ・コンサート(事前申込制)

Workshop Concert

* 5階・1階・地下1階の中継モニターで同時中継いたします。



こちらは、カティンカ・クラインに「何かやってよ、任せるね」とだけ伝えたところ、「オリヴェロスをフォーカスした部屋をやりたい」と言われ、去年、「ポーリン・オリヴェロスの部屋」(フルートのクレア・チェイスが出演)で盛り上がったオリヴェロスを、今回はフルートとまた違うチェロで聴けるのを、とても楽しみにしています。子供から大人まで楽しめる、参加型のワークショップコンサートです。

チェロの部屋 | "Cello's Room"

時間 11:00~11:45

会場 シンフォニースペース(5階)

演奏 カティンカ・クライン

Katinka Kleijn

Program

ポーリン・オリヴェロス: サウンド・リスニング

Pauline Oliveros: Sound Listening

通訳: 内山史子

Interpreter: Fumiko Uchiyama

合唱の部屋 | "Choir's Room"

時間 12:15~13:00 会場 ギャラリー2(5階)

東京混声合唱団メンバーによるコンサート

The Philharmonic Chorus of Tokyo

Program

マリー・シェファー: 魔法の歌

Murray Schafer: Magic Songs

鶴見幸代: ラララのラー

Sachiyo Tsurumi: La La La no La

マリー・シェファー: ガムラン

Murray Schafer: Gamelan

こちらは僕もあり詳しくないシェファー。名前を知っている程度でしたが、東京混声合唱団の徳永さんから詳しく教えていただき、音源を聴いて、是非!と思いました。僕は、実際に何を演奏したいか、歌いたいかということについて、楽団の音楽監督やマネージャーではなく、演奏をする本人(その舞台に立つ人)と意見交換をして進めていくのがボンクリのやり方だと思っています。ですので、今回の東京混声の選曲についても、徳永さんと僕との間でたくさんのメール交換の末に決めました。

こちらは、もうイサオ・ナカムラさんのために書かれた作品群を上げてもらいました。僕の「URI」という作品も出来たばかりの作品で、イサオさんと何回も何回もスカイプして、動画、音源を送っていただき作っていった、ブラジルの楽器のみを使った曲です。エッセンフィルハーモニーとイサオ・ナカムラさんとの共同委嘱作品です。

パーカッションの部屋 | "Percussion's Room"

時間 13:10~13:55

会場 シンフォニースペース(5階)

イサオ・ナカムラによるコンサート

Isao Nakamura

Program

藤倉大: 瓜(URI)

Dai Fujikura: Uri for percussion

マウリツィオ・カーゲル: "エキゾチカ"よりソロ

Mauricio Kagel: Solo aus "Exotica"

パンデイロの即興と歌: トリステーザ(悲しみ)

Improvisation, songs with Pandeiro: Tristeza



ワークショップ・コンサート(事前申込制)

Workshop Concert

* 5階・1階・地下1階の中継モニターで同時中継いたします。

ノルウェーの部屋 | "Norwegian Room"

時間 14:05~14:50

会場 ギャラリー1(5階)

演奏 ヤン・バング

Improvisors: Jan Bang

エリック・オノレ

Erik Honoré

アイヴィン・オールセット

Eivind Aarset

ニルス・ペッター・モルヴェル

Nils Petter Molvær

こちらはもう去年2人で大盛況で、去年のノルウェーの部屋は一日で完売したので(新しい音楽の公演はすぐチケット売り切れちゃいますねー笑)、今回は4人。あと演奏する部屋も大きなものにしてもらいました。楽しみ!

このプログラムはノマドの佐藤紀雄さんと一緒に考えました。望月さんは僕のお姉さんみたいな存在の作曲家で、昔から音楽から他方面の芸術のことまで、よく意見交換をしていました。さらに、ノマドは望月京さんの作品を演奏するために立ち上がったようなアンサンブル、という佐藤さんの言葉もあり、今回ぜひ取り上げたい、と思いました。鶴見さんの音楽は、一度横浜の能楽堂でとても楽しい作品を聴きました。今回は1曲取り上げています。ジャック・ボディは、ポーランドであった大学3年生からしか応募できない作曲サマーコースに、大学1年生だった僕が無理矢理入れてもらった時の講師でした。「自分の出身地である日本からの文化の影響を、跳ね返すのではなく受け入れる、と考えるのも良いと思うよ。ニュージーランド人として、どこが自分のルーツなのか分からなくなることもある。君が羨ましいよ。」と言っていたのを思い出します。その当時、かなり反抗的だった僕は聞き流していたのですが、今ならその気持ちも分かる気がします。

ノマドの部屋 | "NOMAD's Room"

時間 15:00~15:45

会場 シンフォニススペース(5階)

アンサンブル・ノマドメンバーによるコンサート

Ensemble NOMAD

Program

ソフィア・グバイドゥリナ:「音楽おもちゃ箱」より

Sofia Gubaidulina: Musical Toys

望月京:ネクスト・ステップ

Misato Mochizuki: Le pas d'après

鶴見幸代:おほほ

Sachiyo Tsurumi: Ohoho



塩見允枝子:ピアニストのための方向の音楽

Mieko Shiomi: Direction music for a pianist

ジャック・ボディ:「レインフォレスト」より「子供の遊び」

Jack Body: "Children's Games" from Rainforest

ルシエの部屋 | "Lucier's Room"

時間 15:55~16:40

会場 ギャラリー2(5階)

講師 トーンマイスター石丸

Lecturer: Ton Meister Ishimaru

Program

アルヴィン・ルシエ: I Am Sitting In A Room

Alvin Lucier: I Am Sitting in a Room

これは絶対やりたかった作品。これを聴きながらウイスキー舐めつつ、風呂に浸るのが大好きです。ルシエご本人をよく知るICE(インターナショナル・コンテンポラリー・アンサンブル)のクレア・チェイスや、ICEの他のメンバーからも助言を受け、「どんな言語でも」話して良い、という楽譜に倣い、今回は日本語でこれをやりたいと思います。「どうしてこういう音響効果になるのか、果たして“響き”というのはどういうことなのか？」を表す、素晴らしい歴史的な作品。こちらは、東京芸術劇場が誇る音響チームの石丸さんが「トーンマイスター石丸」としてこの部屋をリードしてくれます。特に子供達にとって、この部屋は面白いと思います。試しにお客さんとして体験してみようかな、と僕は考えています。



関連企画(事前申込制)

Related Event

数年前から福島県相馬市で開催されてきた「作曲教室」を、昨年の初開催に引き続き今年も開催します。作曲家や演奏家によってデモンストレーションされる様々な音の中から、自分が好きな「ヘンな音」を見つけ、大人の力を借りずに自分の作品を作り上げます。この「作曲教室」を通じ、子どもたちの"Born Creative"な能力を引き出します。

また、「ヘンな音」を見つける作業にも、自分の作品を作る作業にも、自分がどうしたいのか、何が好きなのか、心の声を素直に聴くことが不可欠です。自分の心の声に耳を澄ますことで、子どもには自分の好きなことを自分で探究する力がつき、それは音楽の作曲だけでなく、子どもが自らの人生を切り開く上で役に立つ力になると考えています。

エル・システマ作曲教室

"The El Sistema Japan
Composition Class"

時間 11:00~13:00 会場 リハーサルルームL(地下2階)

講師 蒲池愛

Lecturer: Ai Kamachi

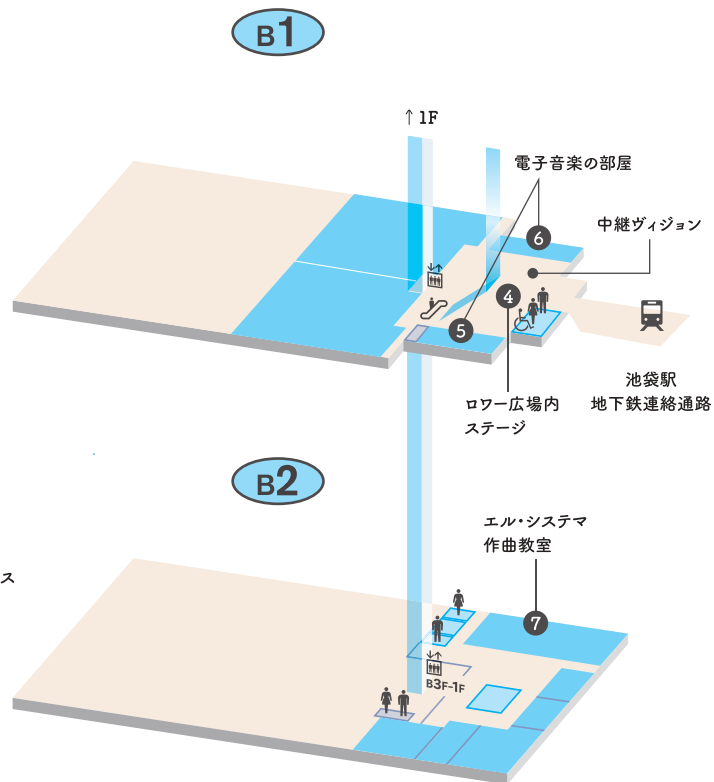
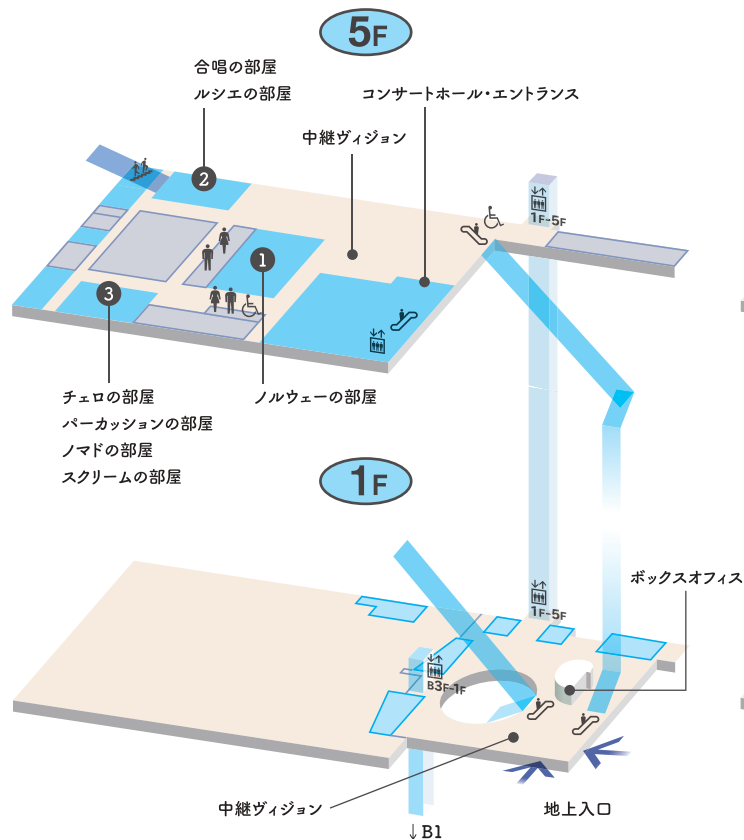
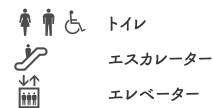
黒田鈴尊

Reison Kuroda

共催 = 一般社団法人エル・システマジャパン

特別協賛 = LVMHモエ ヘネシー・ルイ・ヴィトン・グループ

フロアマップ Floor Map



スケジュール Schedule

■ ワークショップ・コンサート ■ ライヴ・ビューイング(無料イベント)

	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30
コンサートホール(5F・7F)														ロビー開場		スペシャル・コンサート			
① ギャラリー1(5F)								ノルウェーの部屋											
② ギャラリー2(5F)				合唱の部屋								ルジエの部屋							
③ シンフォニススペース(5F)		チェロの部屋				パーカッションの部屋				ノマドの部屋				開場		スクリームの部屋			
④ アトリウム ロワー広場内ステージ(B1F)		10:50～ イサオ・ナカムラ		11:50～ 佐藤洋嗣*							16:45～ 黒田鈴尊			17:05～ イサオ・ナカムラ					
⑤ アトリエイースト(B1F)		電子音楽の部屋 入退場自由(11:00～18:00)																	
⑥ アトリエウエスト(B1F)		電子音楽の部屋 入退場自由(11:00～18:00)																	
⑦ リハーサルルームL(B2F)		エル・システマ作曲教室																	
中継ディジョン(B1F・1F・ボックスオフィス前・5F)		チェロの部屋 (同時中継)		合唱の部屋 (同時中継)		パーカッションの部屋 (同時中継)				ノマドの部屋 (同時中継)		ルジエの部屋 (同時中継)							

★=アンサンブル・ノマドメンバー *やむを得ぬ都合により、スケジュールが変更になる場合がございます。

③スクリームの部屋 17:30開演(17:00開場) 会場：シンフォニススペース(5階) 対象：未就学児とその同伴者(0才より入場可)

未就学児をお連れのお客様を対象に、コンサートホールでおこなうスペシャル・コンサートを同時中継いたします。
コンサートホールにお入りいただけない小さなお子さまとも、一緒に「ボンクリ」音楽をお楽しみいただけます。

*会場内にベビーカーはお持ちいただけません。同フロアにベビーカー置き場をご用意いたします。*配信中継イベントのため、通信環境等の諸事情により、画像・音声の乱れが生じる場合がございます。



途中入退場
自由

スペシャル・コンサート

Special Concert

17:30開演(16:30ロビー開場) コンサートホール

Program

- 1 作者不詳：ハナクパチャブ
Hanaq Pachap
- 2 オリヴィエ・メシアン：おお、聖なる饗宴
Olivier Messiaen: O Sacrum Convivium
- 3 ペーテル・エトヴェシュ：バス・ティンパーノのための「雷鳴」
Peter Eötvös: Thunder for one bass timpani
- 4 アルヴィン・ルシエ：Sizzles
Alvin Lucier: Sizzles
- 5 クロード・ヴィヴィエ：神々の島
Claude Vivier: Pulau Dewata
- 6 大友良英：新曲
Yoshihide Otomo: new work
- 7 坂本龍一：Cantus Omnibus Unus
Ryuichi Sakamoto: Cantus Ominibus Unis
- 8 「Cantus Omnibus Unus」ライブ・リミックス
"Cantus Ominibus Unis" Live Remix
- 9 藤倉大：チェロ協奏曲(アンサンブル・ヴァージョン／日本初演)
Dai Fujikura: Cello Concerto (Ensemble version / Japan Premiere)



出演者

- 東京混声合唱団(合唱)……………[1、2、7]
The Philharmonic Chorus of Tokyo (Chorus)
- イサオ・ナカムラ(パーカッション)……………[3]
Isao Nakamura (Percussion)
- アンサンブル・ノマド(指揮:佐藤紀雄)……………[4、5、6、9]
Ensemble NOMAD (Conductor: Norio Sato)
- 大友良英……………[6]
Yoshihide Otomo
- ヤン・バング(エレクトロニクス)……………[8]
Jan Bang (Electronics)
- エリック・オノレ(エレクトロニクス)……………[8]
Erik Honoré (Electronics)
- アイヴィン・オールセット(ギター)……………[8]
Eivind Aarset (Guitar)
- ニルス・ペッター・モルヴェル(トランペット)……………[8]
Nils Petter Molvær (trumpet)
- 藤倉大(エレクトロニクス)……………[8]
Dai Fujikura (Electronics)
- カティンカ・クライン(チェロ)……………[9]
Katinka Kleijn (Cello)

曲目解説

Program note

作者不詳:ハナクパチャブ

東京混声合唱団のコンサートマスター徳永祐一さんが「これを歌いながら登場します」と提案してくださった曲。どうやって登場するんでしょうねー。

オリヴィエ・メシアン(1908~1992):

おお、聖なる饗宴

僕にはとてもポップに聞こえる、アンビエント音楽みたいなメシアンの合唱曲。僕の合唱曲がオランダのコンセルトヘボウで演奏された時にこの作品も入っていて、いつか自分がキュレーターになったら入れたいな!って思っていた作品です。

ベートル・エトヴェシュ(1944~):

バス・ティンバーノのための「雷鳴」

エトヴェシュさんは僕の音楽上父親みたいな感じの人で(と勝手に僕が思っており)、演奏家に演奏をかなり委ねられた演奏家ならではの作品と、限られたリハーサルでパッチリ音がなるオーケストラの曲など、ある意味正反対の音楽が書ける作曲家。イサオ・ナカムラさんの為に作られたこの作品は、その前者の作品だと思っています。

アルヴィン・ルシエ(1931~):Sizzles

ルシエの作品はずっと前から大好きで、これはオルガンの低音が響くにつれて、ドラムの皮が共鳴して振動する曲。僕も生では聴いたことがないので楽しみです。

クロード・ヴィヴィエ(1948~1983):神々の島

この曲は佐藤紀雄さんからの提案。アンサンブル・ノマド独自のやり方でオープンな作品になると思います。

大友良英(1959~):新曲

大友さんとは去年のボンクリで初めてお会いしましたが、本当にボンクリ精神パッチリな方だったので、今年も是非!とお頼みしました。大友さんの作品は前日くらいまで全くどんな曲なのかは分かりません、はい。

坂本龍一(1952~):

Cantus Omnibus Unus

僕は坂本さんの音楽を(坂本さん曰く、坂本さんより詳しいくらい)子供の頃から聴きまくっていて、今回は合唱がいるのでは非!と思って選んだ美しい作品です。

「Cantus Omnibus Unus」

ライブ・リミックス

去年のボンクリでは(聞いたところによると)史上初の武満徹作品ライブ・リミックスをして、僕も演奏に加わり大変気持ち良い経験でした。今回はノルウェーから4人も来るので、やっぱり坂本さんの合唱曲をライブ・リミックスしたいね!ということになり、坂本さんも「もちろん、良いですよ」と数秒で返信が来たので、やることになりました。

藤倉大(1977~):チェロ協奏曲

この作品は去年のボンクリでも演奏したフルート協奏曲と一緒にリンカーン・センターの音楽祭で世界初演された曲です。今回は長年の親友でこの作品を作曲し始めた時からコラボしてくれ、世界初演でも演奏したカティンカ・クラインが来てくれます。

藤倉大からの
ミニ・コメント



アルヴィン・ルシエ作曲 「Sizzles」 実験レポート

「実験音楽の創始者」とも呼ばれるアルヴィン・ルシエ（Alvin Lucier 1931～）の作曲スタイルは、常に音楽の既成概念を飛び越えている。今回演奏する「Sizzles」も、パイプオルガンの低音域で打楽器を共鳴させ、打楽器の膜面の上に置かれた豆などの小さな物質が動き発する音を、マイクで集音しスピーカーで流す、というルシエの実験的精神に満ち溢れた作品だ。公演に先駆けて、8月9日に東京芸術劇場のコンサートホールで大掛かりな実験を行ない、打楽器が最も共鳴する位置、パイプオルガンの音の重ね方、打楽器の上に乗せる豆の種類などを入念に検証した。実験の結果この作品には、温度や湿度、風の流れなど、コンサートホールのコンディションが大きく影響を及ぼすことがわかった。つまり、どんな音楽が完成するか本番まで誰にもわからないのである。果たして実験の成果や如何に？是非、皆さん自身の耳で確かめてほしい。

写真：安宅真樹

取材：Webマガジン「ONTOMO」

<https://ontomo-mag.com>



Artist Profile

アンサンブル・ノマド

Ensemble NOMAD

現代音楽アンサンブル

Contemporary music ensemble

©Maki Takagi



ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されている。

東京混声合唱団

The Philharmonic Chorus of Tokyo

合唱

Chorus

©平塚 平



1956年に創設された日本を代表するプロ合唱団。主な活動は、東京・大阪での定期演奏会を中心として、内外のオーケストラとの共演やオペラへの出演、青少年を対象とした鑑賞音楽教室、海外公演を含む年間150回の公演のほか、数多くのレコーディングやテレビ、ラジオへの出演がある。

カティンカ・クライン

Katinka Kleijn

チェロ

Cello

©Todd Rosenberg



オランダ出身。シカゴ交響楽団およびインターナショナル・コンテンポラリー・アンサンブル(ICE)のチェロ奏者。クラシックから現代曲、即興音楽、プログレッシブ・ロックまで幅広いレパートリーを持つ。2016年にリンカーン・センターで藤倉大のチェロ協奏曲を世界初演し、「並外れた表現の才能を持ったチェリスト」(ニューヨーク・タイムズ)と評された。

ヤン・バング

Jan Bang

エレクトロニクス

Electronics



音楽家、レコードプロデューサー。ノルウェー南部の町クリスチアンサンで育ち、同郷の音楽家エリック・オノレと音楽活動を始め。これまでにモートン・ハルケット、デヴィッド・シルヴィアン、ニルス・ベッター・モルヴェルらと共にアルバムを発表。2005年からはライブリミックスをコンセプトとした即興音楽祭「ブント」を立ち上げ、現代ノルウェーで最も革新的な音楽家の1人として活躍している。

エリック・オノレ

Erik Honoré

エレクトロニクス

Electronics

©Natalia Kutsepova



作家、音楽家、レコードプロデューサー、サウンドエンジニア。音楽祭「ブント」の共同設立者。これまでにヤン・バング、デヴィッド・シルヴィアン、ブライアン・イーノ&J. ビーター・シュワルム、ジョン・ハッセル、ニルス・ベッター・モルヴェル、アルヴェ・ヘンリクセン、シゼル・アンデルセン、アイヴィン・オールセット、クラウド・スコットらと共演。2017年に最新ソロアルバム「UNREST」をリリース。

アイヴィン・オールセット

Eivind Aarset

ギター

Guitar



現在ノルウェーで最も人気のあるギタリストの1人。1998年にジャズランド・レコードからリリースしたデビュー作『Electronique Noir』は『マイルス』以後のエレクトリック・ジャズで最も優れたものの1つ(ニューヨーク・タイムズ)と評される。これまでにジョン・ハッセル、デヴィッド・シルヴィアン、ビル・ラズウェル、ヤン・ガルバレクらと共演。2012年にはECMレコードからソロアルバム『Dream Logic』をリリース。

ニルス・ベッター・モルヴェル

Nils Petter Molvær

トランペット

Trumpet

©Peder Otto Dyvik



ノルウェー出身のジャズトランペッター、作曲家、レコードプロデューサー。1997年にECMから発表したアルバム『クメール』は、異色のサンプリングを多用したテクノやアンビエント色の濃いサウンドで注目を集めた。2001年のレーベル移籍後も、ジャズと電子音楽を融合させたフューチャー・ジャズのパイオニアとして作品を発表し続けている。2016年には最新アルバム『BUOYANCY』をリリース。

イサオ・ナカムラ

Isao Nakamura

パーカッション

Percussion

©Tatsuya Nakano



1958年大阪生まれ。81年東京藝術大学、89年フライブルク国立音楽大学リスト科卒業。86年、ダルムシュタットにてクラニッシュタイナー音楽賞、92年度青山音楽賞特別賞、04年、イシハラホール公演「三井の晩鐘」にて第4回佐敦三賞受賞。1992年よりカールスルーエ国立音楽大学教授。京都市立芸術大学客員教授。YAMAHAアーティスト。

大友良英

Yoshihide Otomo

作曲

Composition

©佐藤 朗



1959年生まれ。ターンテーブル奏者、ギタリスト、作曲家。実験的な音楽からジャズやポップス、NHKの朝の連続小説「あまちゃん」の作曲などの領域まで作風は多種多様。日本はもとより世界各地で多くのアーティストとコラボレーションを行う。2016年には福島県内の中高校生と発表したミュージカル「タイムライン」の音楽を担当するなど、様々な年代との音楽作りに取り組んでいる。

黒田鈴尊

Reison Kuroda

R八

Shakuhachi

©Ayane Shindo



「エル・システマ作曲教室」講師

“The El Sistema Japan Composition Class” Lecturer

人間国宝・青木鈴翁、三代青木鈴慕に師事。早稲田大学人間科学部、東京藝術大学音楽学部、同大学院卒業。第二回利根英法記念邦楽コンクール最優秀賞受賞。NHK Eテレ「にっぽんの芸能」出演。アンサンブル室町(第13回佐治敏三賞受賞)、邦楽四重奏団(1stCD「野田暉行邦楽作品集」はレコード芸術誌にて特選盤、音楽現代誌にて推薦盤を獲得)メンバー。東京コンサート主催による完全無伴奏の1人舞台“独演会”を毎年開催中。

檜垣智也

Tomonari Higaki

「電子音楽の部屋」監修

“Electronics Music Room” Supervisor

©Reiko Kawasaki



愛知県立芸術大学大学院修了。博士(芸術工学、九州大学)。フランス留学中に現代音楽の作曲とアコースモニウムの演奏で注目される。ハーバード大学、ケルン大学、Futura音楽祭等で招待公演を行う。フランス国立視聴覚研究所音楽研究グループ、回路の詩神、高橋アキ等から委嘱をうける。第5回国際リュック・フェラーリ・コンクール最高賞(2003)、第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品(2014)など受賞、入選多数。大阪芸術大学客員准教授。

石丸耕一(トーンマイスター石丸)

Koichi Ishimaru(Ton Meister Ishimaru)

「ルンエの部屋」講師

“Lucier’s Room” Lecturer



舞台音響を辻亨二氏に、オペラの音響をボリショイ劇場元芸術監督ボリス・ポクロフスキー氏に師事。歌舞伎座、新橋演舞場勤務の後、東京芸術劇場音響チーフ。東京芸術劇場の音響を統括管理しながら劇場主催のオペラ「こうもり」「メリーウィドウ」「ドンカルロス」「青ひげ公の城」「井上道義×野田秀樹フィガロの結婚」「サムソンとデリラ」「マダムバタフライ」「トスカ」等のサウンドデザインを手掛ける。

蒲池愛

Ai Kamachi

「エル・システマ作曲教室」講師

“The El Sistema Japan

Composition Class” Lecturer

©Seiji Okumura



作曲家・編曲家・ピアニスト。国立音楽大学作曲学科卒業。一柳慧に師事。aikamachi+nagie デビューアルバム「Radiant Garden」をリリース。またユニットANANT-GARDE EYESとしてもアニメ「Angel Beats!」「Charlotte」のサントラなどを手がける。Eテレ おはなしのくに 渡辺直美主演「きんたろう」柄本時生主演「うらしまたろう」など担当。ISCM、ICMC、NIME入選。ライブエレクトロニクスを使ったインタラクティブな作品を発表している。現在数多くのCM音楽、CD楽曲提供、また映画音楽、アニメのサントラなど幅広く活躍中。尚美学園、国立音楽大学附属音楽教室ミュージックアトリエ 講師。
<http://www.aikamachi-nagie.com>

永見 竜生[Nagie]

Tatsuo Nagami

サウンドデザイン、MAXプログラミング

Sound design, MAX Programming



マルチ・サウンドクリエイター、レコーディング・エンジニア。「音楽の冒険～藤倉大が考えるLa Nature」(ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2016)にてマルチサウンド・プロジェクトン担当。蒲池愛の現代音楽作品のMaxプログラミングを行いISCM、ICMC、NIMEに入選。aikamachi+nagie、ANANT-GARDE EYESとしてCM、アニメ、映像作品のRecordingからMix、作曲を行う。卓越した音響加工の手腕が評価されている。
<https://www.aikamachi-nagie.com/>





MANNS WINES

マンズワイン スパークリング ワイン



マンズワインからの お知らせ

オンラインショップ
新規会員登録
キャンペーン

ただいまオンラインショップでは
東京芸術劇場で
観覧いただいた方限定で

新規会員登録キャンペーンを実施して
おります。会員にご登録いただきますと、
オンラインショップでのご購入金額が
10% オフになるクーポンを

ご使用いただけます。
この機会にぜひご登録ください。

新規会員登録クーポンコード

BC41231

※ご購入時にクーポン
コード欄へご入力
ください。

※ご使用は1回
のみとなります。

※ご使用期限は
2018年12月末
までとなります。

会員登録ページ
はこちら！



ボンクリ・フェス2018

"Born Creative" Festival 2018

2018.9.24(月・祝)

主催：東京芸術劇場(公益財団法人 東京都歴史文化財団)

助成：平成30年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業 

公益財団法人 花王 芸術・科学財団

公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

協賛：キッコーマン食品株式会社

特別協力：ノルウェー大使館

協力：KAJIMOTO

コンサート開始音提供：CASIO 作曲：藤倉大

[プログラム]

発行：東京芸術劇場／デザイン：秋澤一彰／印刷：(株)アポロ社

発行日：2018年9月24日 禁無断転載